

婦人科長 就任のご挨拶

平成24年4月1日付で婦人科長を拝命いたしました新倉仁です。私はこれまで副科長として婦人科腫瘍の診療を中心に取り組んでまいりましたが、前任の八重樫教授のメディカル・メガバンク副機構長、臨床試験推進センター長就任に伴い、科長を引き継ぐことになりましたのでご挨拶を申し上げる次第です。

婦人科分野に関しても専門化が進み、病院も集約化されてきている現状があります。当科においてはどの領域の専門性にも対応し、さらに科学的に検証可能で将来につながるような最先端治療の提供できる体制を目指しています。

婦人科腫瘍に関しては年間に200例以上の新規のがん症例を取り扱っています。低侵襲手術にも積極的に取り組んでおり、センチネルリンパ節生検の婦人科悪性腫瘍への適用、術中電気刺激を利用した神経温存手術による排尿機能の温存、広汎性子宮頸部摘出術による妊孕能温存の有効性を検討しています。今後、内視鏡下の婦人科悪性腫瘍手術やロボット支援手術も開始する予定です。また、再発癌などの難治症例や希少症例に対しては積極

新倉 仁



的に臨床試験や医師主導治験となるような新たな治療を検証する一方、緩和病棟を有する大学病院としての特徴をいかすことにより患者さんが最後まで安心できるような緩和医療にも積極的に取り組んでいます。

生殖内分泌の領域では高度生殖補助技術(体外受精、顕微授精など)に加え、不妊症例における鏡視下手術(腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術)や、卵管鏡下卵管形成術などの高度医療に取り組んでいます。思春期月経異常、性分化異常、性同一性障害に対しては他科と連携しながら、また、子宮奇形、造腔術など一般病院では対応が難しい症例に対しての治療も行っています。

婦人科診療に関しては各診療科、また看護部をはじめとした多くの部門のスタッフの協力なしでは成り立ちません。最先端の医療を目指しながら、何よりも患者さんのためになる医療を目指していきたいと考えておりますので、これまで同様よろしくお願いいたします。